

日本学術振興会  
炭素材料第117委員会  
第308回委員会議事録

1. 日 時 平成25年11月15日(金) 9:30~17:30
2. 場 所 産業技術総合研究所 臨海副都心センター本館 4F 第二会議室
3. 出席者45名 (順不同・敬称略)

委員長： 寺井隆幸(東大)

主 査： 川口雅之(大阪電通大)、児玉昌也(産総研)

幹 事： 稲垣道夫(北大)、塩谷正俊(東工大)、遠藤守信(信州大)、  
上野貴博(日本工大)、京谷隆(東北大)、小林知洋(理研)、  
安田榮一(東工大)、吉田明(都市大)、豊田昌宏(大分大)、  
尾崎純一(群馬大)

委 員： 岩下哲雄(産総研)、蛭谷玄太(コバレントマテリアル)、  
沖野不二雄(信州大)、塩山洋(産総研)、早川忠明(日本工営)、  
高波浩(タンケンシールセーコウ/代理：木村直文)、  
川野陽一(新日鉄住金化学/代理：福田哲生)、  
福田敏明(東海カーボン/代理：鶴田佳子)、金子克美(信州大)、  
柴田大受(原子力機構)、羽鳥浩章(産総研)、向井紳(北大)、  
鏑木裕(都市大)、河合隆伸(日本カーボン/代理：柴田博史)

委 員 外： 西澤節(神戸製鋼所)、木村脩七(東工大)、白石壮志(群馬大)、  
中村和正(福島大)、阿久沢昇(東京高専)

同 伴 者 他： 曾根田靖(産総研)、棚池修(産総研)、北野高広(テックワン)、  
石井孝文(東北大)、舘山峰雄(コバレントマテリアル)、  
二藤部充広(日立製作所)、川村良一(タンケンシールセーコウ)、  
加登裕也(産総研)、入澤寿平(産総研)、吉澤徳子(産総研)、  
清原健司(産総研)、荻野勲(東北大)、  
兒嶋勇(タンケンシールセーコウ)

#### 4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

##### 4.1 前回議事録の承認

第307回議事録(案)を承認した。

## 4.2 第117委員会関係

### (1) 委員長報告等

#### (a) 人事関係

- ・ 委員退任

楠木 裕 委員 (東京都市大教授) (委員外登録へ)

- ・ 新委員の推薦

平田 孝道 様 (東京都市大教授)

- ・ 次期委員長の推薦

川口 雅之 主査 (大阪電通大教授)

- ・ 新主査の推薦

尾崎 純一 委員・特任幹事 (群馬大教授) (A分科会主査に推薦)

豊田 昌宏 委員・特任幹事 (大分大教授) (B分科会主査に推薦)

上記推薦について、いずれも承認した。

#### (b) 東アジアカーボンシンポジウムについて

11月14日に産総研において特別講演会として開催した。35名の出席（講演者5名を含む）があった。

#### (c) 量子ビーム融合化利用研究（豊田特任幹事）

現時点で予算申請への具体的動きはないが、継続的にJAEA石山氏と連絡を取っている。

#### (d) 第4回日独合同セミナー（尾崎特任幹事）

Carbon2014（濟州島）終了後、7/6（日）～8（火）に札幌（北大）で開催。研究会は7日、8日の二日間で行う。ドイツ側とのバランスを取るため、企業からの発表申し込みを特に期待したい。学生の発表枠を設ける。2月募集締切、4月要旨締切（予定）

#### (e) 次回以降の予定

第309回 4/11(金) 東工大（大岡山）

第310回以降分は4月に決定する。

### (2) 分科会報告

#### (117-308-C-1) サブミクロン炭素繊維のリチウムイオン電池部材への応用

○北野高広<sup>1</sup>, 沖野不二雄<sup>2</sup> (テックワン<sup>1</sup>, 信州大<sup>2</sup>)

#### (117-308-C-2) リチウム金属/黒鉛二層構造負極を用いたフッ化黒鉛リチウムキャパシタ

○白石壮志<sup>1</sup>, 白石晏義<sup>1</sup>, 藤本宏之<sup>2</sup> (群馬大<sup>1</sup>, 大阪ガス<sup>2</sup>)

- (117-308-C-3) 流通反応用カーボン系固体酸触媒の開発  
○荻野勲, 村上一博 佐藤慶孝, 向井紳 (北大)
- (117-308(120)-D-1)米国鉄鋼業の凋落と復興に見る大形直流機の重用とそれを支える EASA (米国電気機器サービス協会) によるフィールドサービス体制  
森田登<sup>1</sup>, ○二藤部光弘<sup>2</sup>  
(株)電動機・ブラシ技術研究所<sup>1</sup>, (株)日立製作所<sup>2</sup>)
- (117-308(120)-D-2)貴金属スリップリングを用いたカーボンブラシの電氣的・機械的摩耗特性の考察  
○上野貴博, 渕本美布佑 (日本工業大)
- (117-308-A-1) DLC 膜の異なる相手材に対するトライボロジー的挙動  
○森下裕行, 宮井清一, 寺井隆幸, 鈴木晶大 (東大)
- (117-308-A-2) PyC 劈開面に観察される微粒子の熱処理による形状変化  
菱山幸宥<sup>1</sup>, ○吉田明<sup>2</sup>, 鐺木裕<sup>2</sup>, 曾根田靖<sup>3</sup>  
(都市大名誉<sup>1</sup>, 都市大工<sup>2</sup>, 産総研<sup>3</sup>)
- (117-308-A-3) 黒鉛及び高温処理炭素に存在する水素と含酸素化合物の定量分析  
○石井孝文<sup>1</sup>, 京谷隆<sup>1</sup>, 吉田明<sup>2</sup>, 菱山幸宥<sup>2</sup> (東北大<sup>1</sup>, 都市大<sup>2</sup>)
- (117-308-B-1) 芳香族高分子を前駆体とする炭素繊維の製造  
○羽鳥浩章, 入澤寿, 曾根田靖, 吉澤徳子 児玉昌也 (産総研)
- (117-308-B-2) 炭素繊維の横方向圧縮特性  
○諸星圭祐, 岩下哲雄 (産総研)
- (117-308-B-3) カーボンナノ空間の際立った機能 —超高压効果と同位体分離効果—  
○金子克美 (信州大)

#### 4.3 報告事項

##### (1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口主査 (運営委員長) より以下の報告があった。

##### (a) 入退会関係

2013年10月9日時点の会員数：1000名 (正会員；752名、学生会員；248名)。賛助会員54社 (口数：59口)

(b) 2013 年度中間報告

中間収支を確認した。年会での招待講演者への交通費・宿泊費については、CARBON2008 記念基金の「学会活動支援など」から計上する予定。

連載講座書籍「カーボン材料実験技術（製造・合成編）ークラシックカーボンからナノカーボンまでー」を 11 月末発刊予定（会員価格を設定）。

(c) 2014 年度事業計画案

学会賞・論文賞について報告があった。2014 年度年会は福岡で実施予定。

会長より、炭素材料学会の将来（Carbon2020 の計画を含む）について話し合う「将来構想委員会」の提案があり、会長または運営委員会の諮問機関として立ち上げることになった（第 1 回目の会議を 12 月 27 日に実施予定）。

2014 年度新規事業として、予定通り「カーボン用語辞典（改訂版）」の Web 化を行う。また 2014 年度より「夏季セミナー」の学会運営を（夏季セミナー実行委員+次世代の会が主体となって）行う。

日独セミナー（2014 年 7 月 6～8 日に札幌で実施予定）に対する補助を行う。

(d) 講習会・セミナー

10 月 18 日（金）に日本教育会館にて「1 日で学ぶ炭素材料の解析方法 ー物性と機能評価を中心としてー」を実施した。40 名の参加があり、質問時間に多くの質問があった。今回は、質問時間の他に事前質問と事後質問を受けた。

2014 年 1 月 24 日（金）に日本教育会館にて「炭素ーシリコン複合系リチウムイオン電池負極材料」を実施予定。

(e) 第 40 回年会準備状況

第 40 回年会を 12 月 3 日（火）～5 日（木）の期間で京都教育文化センターにて実施する（学会 HP、「炭素」11 月号にプログラムを掲載）。全体の特別講演 1 件、ナノカーボン招待講演（海外）3 件・（国内）3 件、ナノカーボン Keynote 4 件を予定。ナノカーボン特別セッションの一部としてインターナショナルセッションを設けた。

炭素誌関係：沖野委員（編集委員長）より以下の報告があった。

(f) 260 号（特集号）が間もなく発送される。年会プログラムを掲載。

(g) 年間の投稿数が 40 報程度で推移しており、J-Stage 投稿システムに採用される目安の 50 報以上に増やしたい。

(2) Carbon 誌関係

京谷幹事より、来年から Editor を羽鳥委員に交代する旨報告があった。

(3) 国際会議関係

- ・ Carbon2014（6/29-7/4, 濟州島）
- ・ 第 4 回日独合同セミナー(7/6-8, 札幌)

(以上)